

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

#### 4 本校の参加状況

- ① 国語 20 人
- ② 算数 21 人

#### 5 留意事項

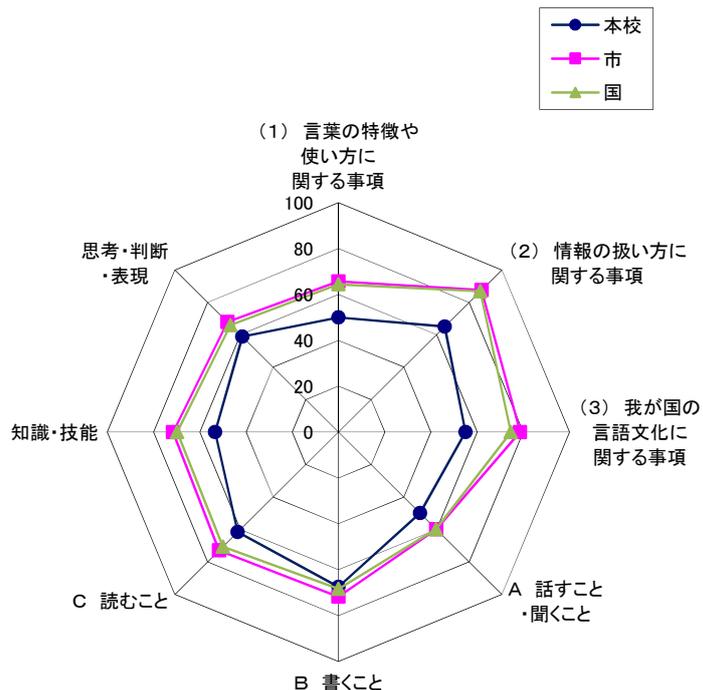
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立田原西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	50.0	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	65.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	55.0	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	50.0	59.9	59.8
	B 書くこと	67.5	71.8	68.4
	C 読むこと	61.7	72.9	70.7
観点	知識・技能	53.3	71.5	69.8
	思考・判断・表現	58.8	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

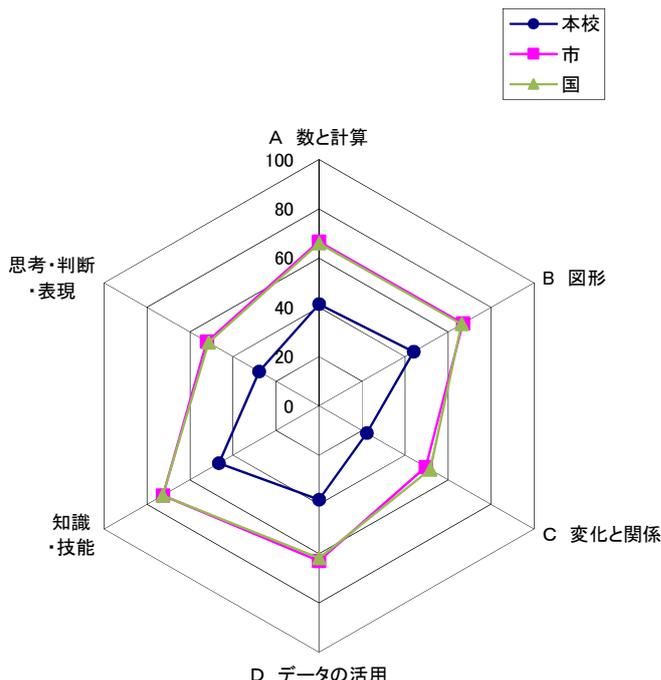
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○「なげる」を漢字を使って書き直す設問はよくできている。 ●「きょうぎ」は間違いが多く、無回答も多い。上学年で習った漢字について、定着していないと考えられる。	・学習の振り返りや日記など、日常生活の中で習った漢字を使うよう取り組んできたことが成果として表れていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・学年が上がるにつれて漢字も難しくなるので、AIドリルを活用したり、間違えた漢字については、間違い直しを確実に実行して、定着を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問に課題が見られる。関係している言葉を線で繋いで図に整理していることが理解できていなかったと考えられる。	・自分の考えを整理する際、思考ツールやICTを活用することで、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるよう、今後も思考ツールやICTを活用していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる設問に、課題が見られる。	・様々な分野の本に親しむことができるよう、図書館司書と連携し読書活動を推奨して、充実した読書体験をさせていきたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○目的に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりしたメモがどのように役に立ったのかを問う設問は、比較的理解できている。 ●話し方の工夫として適切なものを選択する設問に課題が見られる。	・話し合いの場を積極的に設け、相手の発言を受けて、自分の話し方を工夫することの大切さを指導する。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均と同等である。 ○集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしていることが理解できている。 ○事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表すことが、比較的よくできている。	・引き続き、学習や行事の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多く設定する。 ・引き続き、朝の学習の時間に共通の課題を提示し、課題に対する自分の考えや理由を書いたり、段落等の条件に合わせて書いたりする作文の時間を設ける。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く設問ができていなかった。記述した児童はよくできていたが、無回答率が高い。	・物語文を読む際には、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして内容を捉え、考えをまとめられるよう指導していく。

# 宇都宮市立田原西小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	41.3	66.7	66.0
	B 図形	44.0	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	22.2	49.6	51.7
	D データの活用	38.1	62.9	61.8
観点	知識・技能	46.6	72.6	72.8
	思考・判断・表現	27.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。</p> <p>○数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる設問では、正答率が7割を超えており、比較的よくできているといえる。</p> <p>●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる設問では、全国を大きく下回っており、文章から立式する力に課題が見られる。</p>	<p>・文章問題に繰り返し取り組ませ、問われていることや数量関係を文章から正しく読み取り、立式する力を身に付けていく。</p> <p>・問題の数量関係を捉えられるようにするため、テープ図や数直線の学習を学年に応じて取り入れていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。</p> <p>●球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる設問では、正答率がかなり低い。</p>	<p>・図形の学習では、実物を見せたりICTを活用したりすることで、具体物の操作を増やし、理解が深まるようにしていく。</p> <p>・図形の観察や構成などの活動を行う際は、直線の平行や垂直の関係と、図形を構成する要素(辺、角)を関連付け、図形の性質について考察する場面を設けていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。</p> <p>●速さの意味について、理解しているかどうかをみる設問では、理解が不十分である児童が多く見られる。</p>	<p>・速さについて扱う際には、単に速さを求めるだけでなく、時間や道のりとの関係やそれぞれの数量の意味について繰り返し指導していく。</p> <p>・割合の意味を十分理解させるとともに、日常的に割合に触れる機会を設けることで、習熟を図る。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。</p> <p>●円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる設問に課題が見られる。</p>	<p>・グラフや表の学習では、どの部分に着目するとよいか説明する活動を取り入れる。一人一台端末を活用して、注目すべきところを共有したり、説明させたりするなど指導の仕方を工夫する。</p>

## 宇都宮市立田原西小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」の設問では、肯定的回答が国の平均より2ポイント上回っている。国語の授業が将来どのように生かされるか伝え、意欲的に学習に取り組むことができるように繋げていきたい。

○「友達関係に満足していますか」と「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」の設問では、ともに肯定的回答が9割を上回っている。学校生活に満足していることがうかがえる。これからも、ハッピータイムやことばタイムなどを有効活用して、満足感の向上に繋げていきたい。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の設問では、肯定的回答が国の平均より12.7ポイント下回っている。普段から教師が児童に対して、1人1人のよさを認め、自己肯定感を高めることができるような声掛けを意識的に行ってきたい。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習に繋げることができていますか」の設問では、肯定的回答が国の平均より33.1ポイント下回っている。復習の大切さを確認し、よくできている自主学習を紹介するなどして復習をする習慣を付けるようにしていきたい。

## 宇都宮市立田原西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・全教科において、感想や振り返りだけでなく、分かったことや自分の考えなどを記述する場を意図的に設け、思いを言語化できるようにする。	・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を十分に取、友達と考えを交流することで考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・振り返りやまとめを書く際に、必要な学習用語や文字数などの条件を整えて書く場を設ける。	・国語の「書くこと」の領域は、他の領域に比べ、よくできている。 ・「5年生までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」の肯定的割合が低い。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語・算数ともに基礎的な知識や技能に課題が見られる。算数ではすべての領域で全国平均を下回った。	・児童が自ら考えたいくなるような導入の工夫をする。	・ICTを活用する、実物を使う、身の回りにある課題から入る等、児童の知的好奇心を刺激するような課題を工夫し、意欲を高める。 ・単元の導入で全学年までの内容を復習する機会を設定し、定着を図れるようにする。